

Q

## 二度返事はどうして嫌がられるのですか？

やりたくない時に限って、お母さんはよく言いつけをします。「はい、はい」と一応返事をしてはいますが、そのたびに「二度返事はやめなさい！」と怒られます。やはり心の中の不満が、言葉に現れてしまっているのでしょうか。

A

札幌学院大学人文学部教授

**森 直久** (もり なおひさ)

母：お皿片付けてちょうだい。

あなた：(え、やだな) はいはい。

母：二度返事はやめなさい！

あなた：はい。(テレビ見たいのに)

母：よろしい。

あなた：はい。(なによ)

母：はい。

……で、あなたはしぶしぶお手伝いをはじめたと。やはり心が言葉に現れていたのかな。でもちょっと考えてみてください。2回目と3回目の返事的时候は、あなたの不満にもかかわらず、お母さんの反応は違いますよね。結論から言うと、お母さんが癪しかくに感じたのは、あなたが会話の規則を破ったからであって、あなたの気持ちは基本的に関係なかったのです。

シュエグロフとサックス(1995)は、会話の参加者が従うべき規則をいくつか描出しています。ある人が言葉を投げかけてきたら、相手に応答する義務あるいは権利が生じます。この基本ルールによって、隣接対という発話対が形成されます。先になされた発話を第一成分、それに続く発話を第二成分といいます。第一成分がどのような発話であるかによって、第二成分で返すべき発話が期待されます。挨拶には挨拶が、要求には受諾が期待されます。ルール破りを犯した人は負の印象をもたれます。挨拶をしたのに挨拶が返ってこなかったら、あるいはあなたが言うべき挨拶の返事を別の人が割り込んで取っていったらどうでしょうか。

期待された応答が第二成分でなされた後に、別のトピックに関する第一成分が発せられれば会話は進展していきますが、互いに発言権を

スするような隣接対が形成された場合は、会話は終了を迎えることができます。これを先終了句と言い「はいーはい」とか「うんーうん」のような形をとります。お母さんの要求をあなたは受諾し、発言権を二人がパスしあって会話を終了させ、お手伝いが開始されればルール通りです。二度返事を叱られて以降はそうなりませんよね。

あなたの二度返事は、要求に対する受諾に加えて、その直後に相手が言うべき「はい」までも発し相手の発言の機会を取り上げて、自分一人で先終了句を実現させ、会話を一方的に終了に導くルール破りの行為だったのです。会話ではルールに則っているかが問題で、内心は二の次です。ルール破りという行為によって内心とは独立に、あなたの心は悪く取られます。だからあなたは怒られるのです。試しに、言うことを聞く気満々のときに二度返事をしてみてください。

心とは無関係に心が伝わるなんて不思議だと思いませんか。「はいはい。」心理学では行動を見ることも大切なんですよ。「はいはい。」わかってくれましたか。「はいはい。」海より広い私の心もここらが我慢の限界です。

## 文 献

シュエグロフ, E. & サックス, H. (1995) 「会話はどのように終了されるのか」 G. サーサス 他/北澤裕・西阪仰 (訳) 『日常性の解剖学』マルジュ社に収録



### Profile — 森 直久

札幌学院大学人文学部教授。専門は認知心理学、社会心理学。主な著書は、『心理学者、裁判と出会う：供述心理学のフィールド』（共著、北大路書房）など。